経済学部・経済学研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 5-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 5-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、論文・著書などの研究業績の状況は、平成 19 年度において査読付学術雑誌掲載論文 45 件（うち英文 39 件）、その他学術論文 48 件（同 14 件）、教員当たり査読付き論文数年平均 0.82 件（同 0.71 件）等、高い水準で研究業績が生まれており、加えてディスカッションペーパーの発行、叢書・教科書の刊行等の活動も活発に行われている。学会における中心的役割については、経済学部・経済学研究科教員は主要学会に所属し、会長ならびに理事職等の要職や座長・学会誌編集委員等を務めるとともに活発な学会報告を展開している。共同研究の状況について、六甲フォーラムによる共同研究の推進に加えて、COE 併設の COREAP では海外研究者を招聘して国際共同研究が展開され、編著や共同論文の数にその成果を見ることができる。研究資金の獲得状況については、経済学部・経済学研究科に「研究資金獲得推進委員会」を設置し、組織的な取組を行った結果、21 世紀 COE プログラム「新しい日本型経済パラダイムの研究教育拠点－グローバル化と人口減少下の持続可能経済」を獲得するとともに、科学研究費補助金の獲得件数も 24 件あり、金額も教員一名当たり 100 万円に達するなど、全国的にも高い水準にあることなどは、優れた成果である。

以上の点について、経済学部・経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、経済学部・経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した水準の業績の該当論文は、国際学術雑誌ランキングによる総合指標 1.0 以上の学術雑誌掲載のものであり、中には世界的権威ある学術雑誌に掲載ならびに引用された業績（Nonlinear pricing with self-control preferences）がある。また優れた業績として、著書（Empirical Techniques in Finance、Hidden Markov Models: Applications to Financial Economics）がある。両者はいずれも世界的権威ある出版社から刊行

されている。また、その他に優れた業績のなかには経済政策立案に貢献した業績（Forecast Accuracy of the Japanese Government: Its Year-Ahead GDP Forecast Is Too Optimistic,Social security and trust fund management）も見られることなどの特徴がある。これらのことから研究レベルの高さと顕著な研究成果を見て取れる。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、経済学部・経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、経済学部・経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。